

速 報

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成14年度病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、平成14年度病虫害発生予察速報第3号を発表したので送付します。

平成14年度病虫害発生予察速報第3号

- 1 対象作物 早植水稻、普通期水稻
- 2 病虫害名 スクミリンゴガイ
- 3 発生状況
 - (1) 5月5半旬調査の結果、早期水稻における1㎡貝数は平均0.5頭、（平年：0.2頭、前年：0.5頭）でやや多い。
 - (2) 巡回調査の結果、用水路の壁面やイグサの茎に多くの卵塊が確認され、本年は暖冬傾向であったためスクミリンゴガイの越冬量は多いと考えられる。
- 4 発生予想
今後、梅雨に入り浸冠水するような降雨があった場合、食害及び欠株が発生する可能性が高い。
- 5 防除上注意すべき事項
 - (1) 水田内及び用水路等に発生した生貝を捕獲し、圧殺焼却処分する。
 - (2) 密度増加の抑制と分布拡大防止のため、水田内や用水路周辺の雑草、コンクリート壁面などに産下された卵塊を圧殺する。また、産卵後間もない卵塊であれば、水中に落とすだけで死亡するため、見つけ次第水中へ落とす。
 - (3) 取水口からの貝の侵入を防止するため、水口に網を取り付ける。
 - (4) 食害による実被害は移植後3週間頃までに限られるため、それまでは浅水管理を行い被害の軽減を図る。
 - (5) 水田内に溝を切ることにより溝に貝を集めたり、野菜くず（キャベツの葉・キュウリ・スイカの果実等）を串に刺し、畦畔沿いの水面に固定して、これらの餌に貝を集めたりしてイネへの食害を軽減する方法もある。
 - (6) 上記のような防除法による被害の回避が図れない場合には薬剤防除を行う。
 - (7) 薬剤による防除を行う場合には、「平成14年度普通作物病虫害防除基

準」を参照する。防除薬剤は用排水路や池での使用が禁止されているため、水田以外では絶対に使用しない。また、未登録の農薬や資材は環境保全の面からも絶対に使用してはならない。